



株式会社 良品計画  
Ryohin Keikaku Co.,Ltd.(MUJI)

2020  
Communication on Progress  
対象期間:2019年9月～2021年2月

当社は、国連の提唱する人権、労働、環境及び腐敗防止に関する普遍的原則を進める『国連グローバル・コンパクト』に、2013年9月から参加しています。社内・外における積極的なCSR活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2021年6月13日

代表取締役社長

松崎 晃

内容について詳しくは、当社ホームページ内「サステナビリティ」(<https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/>)に記載をしております。

人権分野に関する活動報告

<p><b>Cafe&amp;Meal MUJIで寄付金付きメニューの提供</b> 世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWO プログラム」を、国内のCafe&amp;Meal MUJIに導入。対象商品にプラス20円を追加してお支払いいただく事で、その20円が「TABLE FOR TWO」を通じて開発途上国の学校給食一食分に生まれ変わります。 TABLE FOR TWO プログラムとは、私たちが社員食堂や店舗などで、TFT対象となるカロリーを抑えたヘルシーメニューを購入すると、代金に含まれる20円が寄付金となる仕組みです。対象となるヘルシーな食事を摂ることで参加者の健康管理につながるのと同時に、寄付によってアフリカの子供たちに温かい給食が届けられるという、双方にメリットのある取り組みです。 TABLE FOR TWO の取り組みについて: <a href="https://cafemeal.muji.com/jp/table-for-two/">https://cafemeal.muji.com/jp/table-for-two/</a></p>	<p>世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWOプログラム」を、国内のCafe&amp;Meal MUJIに導入しています。2019年9月1日から2021年2月28日まで、合計13,643食を販売しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p><b>良品計画の生産パートナー行動規範に基づく取引先工場モニタリング</b> サプライチェーンにおける人権及び労働環境への配慮に関する機運の高まりや、当社グループ事業の拡大を背景に、当社グループ及び取引先に対して「良品計画の環境・労働・安全マネジメント」を2007年に策定しました。2015年には、活動をさらに強化するため、国連グローバル・コンパクトの10原則及びILOの中核的労働基準を基に「良品計画の環境・労働・安全に関する基本方針」を策定し、「良品計画の環境・労働・安全マネジメント」を併せて改訂し、2020年7月に「良品計画の生産パートナー行動規範」を制定し、遵守を誓約いただける工場とのみ契約しています。また、取引先工場には、本行動規範を基準として、労働環境モニタリングを実施しています。 (<a href="https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/supply-chain/code-of-conduct/">https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/supply-chain/code-of-conduct/</a>)</p>	<p>2019年度は76工場、2020年8月期は23工場の訪問監査を実施しました。 2020年8月期に実施した23工場の監査において、「生産パートナー行動規範」の項目のうち、安全衛生、賃金、福利厚生上の指摘があった工場は5工場でした。これらの工場に対して、速やかに是正措置を講じ、3か月以内には是正の証拠(改善実施報告書)を良品計画に提出することを要求しました。また、改善状況の確認と再発防止のため、監査後半年～1年以内にフォローアップ監査の実施も予定しています。 加えて、良品計画のマネジメント層は、年に2回、第三者による現地監査結果をレビューし、必要に応じて取引継続の妥当性を議論します。2019年度、2020年8月期は、レビューの結果、人権を著しく侵害しており取引見直しの検討対象となる工場はありませんでした。 (<a href="https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/supply-chain/monitoring/">https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/supply-chain/monitoring/</a>)</p>	<p>引き続き第三者工場監査を実施し、労働環境モニタリングを実施していきます。</p>

労働に関する活動報告

<p><b>キルギスでの商品開発プロジェクト</b> 独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency、以下 JICA) が発展途上国で支援している一村一品運動に賛同し、JICAとの共同企画商品を展開しています。キルギスのフェルトを使った商品のように、地域の特産物を活かした住民による地域活性化を目指した取り組みです。</p>	<p>これまではXmas時期のギフト商材としての商品開発を行っていましたが、2013年度からは「年間定番として販売できる企画」にレベルアップさせるため、商品デザインの変更に取り組んでいます。2019年度からは、スリッパやバッグ、帽子、ラグなどを製品化し、日本国内だけでなくヨーロッパやアメリカ、中国大陸、香港、台湾、オーストラリア、シンガポール、タイの無印良品の店舗で販売しました。 2019年の発注金額は約970万円 (88,833USD) で、2020年は約2,240万円 (204,927USD) でした。</p>	<p>新規アイテムの開発と販売店舗数を拡大していきます。</p>
<p><b>障がい者雇用</b> 良品計画では2000年に障がい者雇用をスタート、2009年にはハートフルプロジェクトが発足し、「働く仲間の永続的な幸せ」、「仲間を信じ助け合いともに育つ」、「店舗での雇用拡大および雇用定着」を目的に障がい者雇用を進めています。 障がい者の方の能力が引き出せるよう各個人の特性・個性にあった雇用管理や指導の工夫等のサポート体制、また評価によるステップアップ制度を構築しています。</p>	<p>2021年2月末時点、日本国内の障がい者雇用率は2.99%です。</p>	<p>引き続き障がい者雇用を進めています。</p>
<p><b>ラオスの村とのマイバッグの開発</b> 2011年から「布製マイバッグ」はラオスにある縫製工場で作っています。この工場は、縫製技術の高さはもちろんのこと、ラオスでの雇用創出に繋がる活動に積極的に取り組んでいることへの共感から、この工場を選択しています。 これからも安定的な生産数を保ちながら、従業員の雇用を守ることにつながる活動に協力していきます。</p>	<p>2019年3月から2021年2月まで、ラオスで生産するマイバッグを約200万枚発注しました。 無印良品でのお買い物の際には、お持ち帰り用のマイバッグ持参の協力をお客様にお願いしています。</p>	<p>現地従業員の雇用を守るため、引き続き安定的に商品を発注します。</p>
<p><b>ミャンマーでの生産者支援</b> ミャンマー南シャン州でのケシからコーヒーへの栽培転換を支援し、コーヒー生産農家の収入を増やすため、ミャンマー国内向けに低価格で買い取られている小粒コーヒー豆を適正な価格で買取し、「ミャンマーのコーヒー豆」として販売しています。</p>	<p>2020年9月に発売した「ミャンマーコーヒー豆」は、初回納品の2500ピースを完売しました。</p>	<p>2021年も継続仕入れる予定です。</p>

環境に関する活動報告

<p><b>素材、工程の点検</b> 再生素材、捨てられるもの、残反・残糸など、資源をムダにしない素材を採用しています。</p>	<p>例えば、無印良品のシャツ・Tシャツを作る生産工程で出た端切れを人の手で仕分け、粉碎してワタ状に戻し、未使用の綿と混ぜて再び紡績をし、「再生コットン」として使用しています。「資源をムダにしない」という、無印良品誕生当時からの方針を大切に、服の生地を裁断する際に発生した端切れを再生して製品化する取り組みです。2019年度は、アウター、ホームウェア、靴下、Tシャツ、スニーカー、タイルなどを商品化しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p><b>包装の簡略化</b> できるだけ包装をしない販売を目指します。包装が必要な場合も最小限の包装となる努力をします。</p>	<p>衣服・雑貨では納品形態の個包装を廃止し、環境負荷軽減を目指しています。食品では包装を簡略化しているレトルト食品の売上が大幅伸長しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p><b>繊維製品のリサイクル</b> 2010年からスタートしたBRINGプロジェクトは、繊維製品をバイオエタノールとして再生する新しい技術を中心に、衣料品の100%リサイクルをめざし発足した企業連携のプロジェクトです。</p>	<p>BRINGプロジェクトは継続して取り組んでおり、2019年3月～2021年2月で約92.1トンの繊維製品の回収をいたしました。 2015年3月からは、プロジェクトで回収した衣料のうち、まだ着ることのできるものを染め直して再度販売する「ReMUJI」を実施、2015年9月からは、流通の過程で販売することのできなくなったものについても対象としました。2019年9月から2021年2月までに、約2200枚を販売しています。</p>	<p>21年3月より、日本国内のReMUJI商品常設店舗数を増やし、販売を拡大していく予定です。</p>
<p><b>プラスチック素材の使用削減</b> 人と自然とのより良い関係を考える無印良品は、プラスチック素材の使用削減に、さまざまな方法で取り組んでいます。2019年春夏企画の商品から、商品の販売に使用しているプラスチック素材の副資材を削減、もしくは紙製に変更しています。</p>	<p>2019年春夏では、靴下やストール等のフックやハンガーを、再生紙の仕様になっています。フレグランスアイテムやトイレブラシ等の外箱も、紙製への切り替えをすすめています。 また、プラスチック製ショッピングバッグの配布をせず、ご自身のバッグをお持ちいただいた方に自社アプリのMUJIpasportマイルを付与するなど、買い物バッグ持参を推奨しています。2020年7月から2021年2月まで、総客数のうち、約33% (買い物バッグ持参、もしくはレジ袋を辞退) のお客様にMUJIpasportマイルを付与しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p><b>店頭での給水サービス</b> 2020年7月より、無印良品店内の給水機で給水サービスがスタートしました。あわせて、自分で水を詰めてくり返し使う「自分で詰める水のボトル」の販売と、給水を日常生活に楽しく取り入れる「水」アプリのサービスも開始します。 この給水機でご利用いただける飲料水には、水道水を使用しています。ペットボトル入りの飲料を新しく買う代わりにマイボトルを持参すれば、誰もが気軽に飲料水を詰めることが可能です。店内に給水機を導入し、マイボトルを持参される方が増え、環境や健康について考えるきっかけとなることを目指しています。</p>	<p>給水サービスは、2020年7月に113店舗でスタートし、2021年2月には、日本国内の238店舗店舗まで広がりました。</p>	<p>給水サービス: 2021年5月末には日本国内300店舗、2021年12月末までに日本国内全店舗460店舗への導入を予定しています。</p>



## 環境に関する活動報告

<b>PET素材回収</b> 店内での給水サービスの開始に合わせて、「PET素材回収リサイクル」取り組みをスタートしました。使い終わった化粧水や乳液のボトル、また「自分で詰める水のボトル」が回収の対象です。回収したボトルはポリエステル原料にリサイクルすることで、プラスチックごみを削減し、石油由来原料の有効活用につなげます。	2020年7月から2021年2月まで、化粧水・乳液ボトル:15,533本 自分で詰める水のボトル:467本 を回収しました。	引き続き活動を実施します。
<b>家具の月額定額サービスを開始</b> 地球資源を大切に、廃棄物を削減するため、必要なモノを必要な「量」と「期間」、購入ではなく「利用」していただく月額定額サービスを家具商品を対象に開始しました。このサービスを活用することで、家具の処分にも悩むことなく、廃棄物の削減にもつながります。また、契約終了後に返却された家具については、廃棄はせず、循環させてゴミを減らす活動に繋がります。パーツ交換やメンテナンスを施し、改めて月額定額サービスに再利用、中古品として販売することなどを予定しています。	2020年7月より、「無印良品とIDÉEの家具・インテリア用品のセット」6種類を定額でご利用いただけるサービスを期間限定で承り、ご好評をいただきました。(2020年11月で終了いたしました。)その実験期間の中で多くいただいた、「セットではなく単品で利用したい」というご意見を受け、2021年1月15日(金)より、家具単品を対象にした月額定額サービスを、新たに開始しました。	契約終了後に返却された家具については、廃棄はせず、循環させてゴミを減らす活動に繋がっていきます。
<b>コオロギせんべいと大豆ミートを開発</b> 世界の急激な人口増による、今後の食糧確保と環境問題などの課題を考えるきっかけになればという思いから、昆虫食先進国のフィンランドを訪問するなど情報収集を行い、その結果昆虫食研究の最先端を走っている徳島大学と協業し、コオロギを食材とするための取り組みを始め、2020年5月に「コオロギせんべい」を発売しました。また、2020年10月より、牛や豚など比べて生産時に使用する水が少なく済み、CO2が発生しにくい大豆を主原料とした「大豆ミート」4種類を発売しました。普段の食卓で慣れ親しんでいる「大豆」が、環境問題を考えるきっかけになることはもちろん、健康志向やエシカル消費の高まりなどもふまえ、より自分に合った豊かな食生活を送るための選択肢のひとつになればと考えています。	<b>【コオロギせんべい】</b> 2020年5月発売当初はネットストアのみの販売ですが、販売店舗を順次拡大し、2021年2月末時点では、日本国内51店舗と無印良品のネットストアにて販売しました。  <b>【大豆ミート】</b> 無印良品の店舗及びネットストアにて販売しています。	コオロギせんべいの生産量を拡大し、日本国内全店舗にて展開することを目指しています。

## 腐敗防止に関する活動報告

<b>お取引先様とのパートナーシップ</b> 製造委託取引先様には、良品計画の企業行動を理解し、継続して実践していただくために、「良品計画の生産パートナー行動規範」への署名を要請し、賛同いただける工場とのみ取引を行っています。また、製造委託先工場が本行動規範を遵守し、継続的な取組を実施しているかどうか確認するため、第三者専門機関が現地訪問し、製造現場の労働環境モニタリングを定期的に行っています。監査結果は、製造委託先工場にフィードバックし、不適事項に関しては、工場のマネジメントに改善を求めるとともに、改善のための支援を行っています。	2018年6月に、当社およびグループ会社の役員・従業員による贈賄を未然に防止するために、贈賄防止規定を制定し、取締役会で決議しました。当規定は、各販社の取締役会でも承認され、販社の社員が遵守すべき規定となっています。	引き続き活動を実施します。
<b>グループコンプライアンス行動指針を開示</b> 当社グループのグループコンプライアンス行動指針、腐敗行為防止への取組みなどの情報を企業コーポレートサイトに開示します。	2020年12月に企業コーポレートサイトに公開しました。 (https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/governance/compliance/)	引き続き活動を実施します。

## その他の活動報告

### ・地域活性化の取り組み

無印良品は、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指し、各自治体や地元住民が主役となって、それに無印良品が巻き込まれる形で、青果売場の展開や団地コミュニティ再生の取り組み、棚田の保全活動、廃校を活用したコワーキングスペースの開設など、さまざまな取り組みをすすめてきました。2020年は、新潟県上越市・頸城自動車株式会社(1月)、新潟県十日町市(9月)、千葉県いすみ市・夷隅東部漁業協同組合・株式会社SOTOBO ISUMI(10月)、福島県双葉郡浪江町(11月)と地域社会の発展と地域経済の活性化を目指した連携協定を締結しました。また、総務省の地域活性化プログラム「地域おこし企業人制度」による当社社員の派遣を通じて、現地での地域活性化事業を推進しています。

### ・キャンプ場の運営

良品計画が運営する3つのキャンプ場(新潟県津南町、岐阜県高山市、群馬県嬬恋村)では、合計約70万坪のキャンプ場周辺の森林を管理しています。地域の方に講師として参加していただくアウトドア教室の開催や子供たちを対象としたキッズサマーキャンプの開催を通して、利用者に自然への理解を深めてもらうための活動を行っています。

グローバル・コンパクトのウェブサイトに掲載する。(https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/muji-sustainability/stakeholder-engagement/)

以上

